

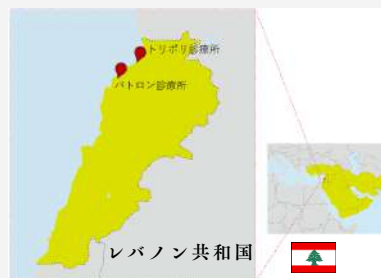
活動報告 2024 - 2025

レバノン赤十字社・日本赤十字社

診療所の運営支援・拡大事業

事業概要

レバノン国内で暮らす脆弱な状況にある人びとが健康に暮らせるよう、レバノン赤十字社が運営する36の診療所のうち、優先度の高い19カ所の改善・拡大を目指すレバノン赤十字社と国際赤十字の共同事業です。2024年および2025年について、日赤はトリポリ診療所とバトロン診療所の支援を担当しました。施設の修繕および整備、診療所の運営に欠かせない医療従事者の雇用、医薬品や医療用品の適切な調達が行えるようITを含めたシステム整備等を行いました。



修繕や改善の例



医薬品管理強化の一環で、整頓されたバトロン診療所の薬剤庫



整理整頓された診療所の滅菌エリア。手順書も完備

現地からの感謝の声

ご支援のお陰で、施設機能の拡充が進み、高まる利用者ニーズに対応できるようになりました。

レバノン赤十字社・トリポリ診療所担当
＜タクラ看護師長＞



レバノン赤十字社の診療所は、診察・処方薬ともに低額なので、高額な医療費を支払えない私たちのような患者が、ためらうことなく通うことができ、地域にとってなくてはならない存在です。日本のみなさんの支援に深く感謝しています。

＜バトロン診療所利用者 ダッド・バダウィさん＞



レバノン共和国について

2020年以降、中東のレバノンでは深刻な経済危機が続いています。仕事を失う人も増える中、多くの人びとが先の見えない不安を抱えながら暮らしています。日々の生活に欠かせない食品や医薬品、衛生用品も高騰し、「必要なものを買う」こと自体が難しくなっています。こうした状況に、新型コロナウイルスの流行や、2020年に起きたベイルート港の大爆発が追い打ちをかけました。その影響で、電気や医療など、本来国が支えるべき基本的なサービスも十分に機能なくなっています。

さらに、2023年以降の中東情勢の悪化により、レバノンの経済は一段と逼迫しています。国家の財政難が深刻化するなかで医療制度は崩壊の危機にあり、多くの人が高額な医療費をほぼ自己負担で支払わざるを得ない状況が続いています。そのため、必要な治療を受けられない人も少なくありません。すべての人が、必要なときに必要な医療を受けられるように。

今、レバノンの人びとへの継続的な支援が強く求められています。



■日赤の中東人道危機救援事業■



日赤の中東地域での活動実績はWEBからもご覧頂けます。
～皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします～

問い合わせ先

電話番号：03-3437-7088

メール：kokusai-kyuen@jrc.or.jp

担当：国際救援課 事業係 中東担当

